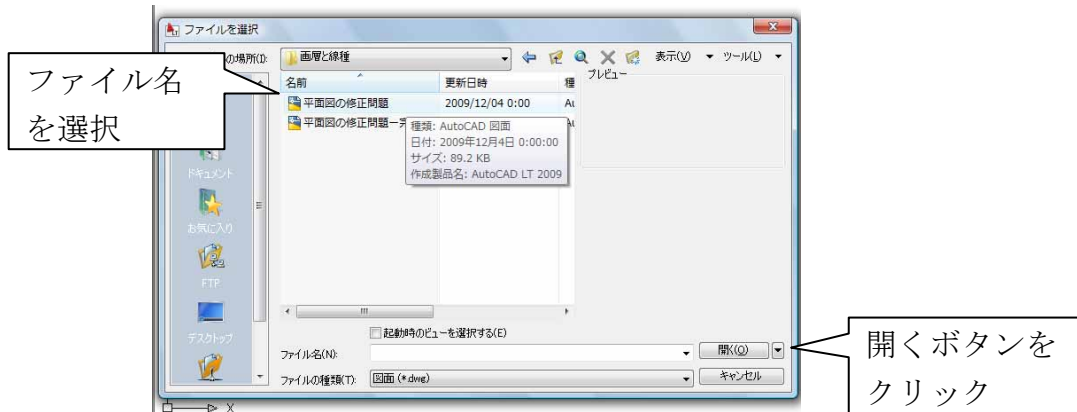


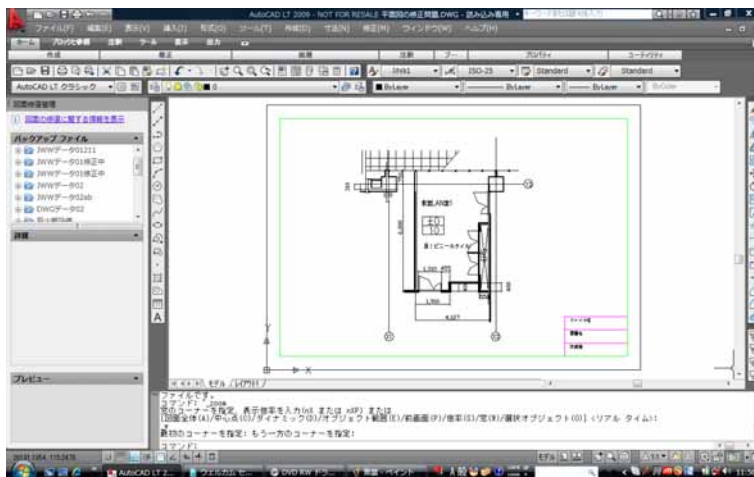
画層と線種に関する練習問題

手順1、「ファイル」から「開く」を選択します。



手順2、CRT画面にデータが表示しますが、画面全体に拡大させる作業を
しましょう。

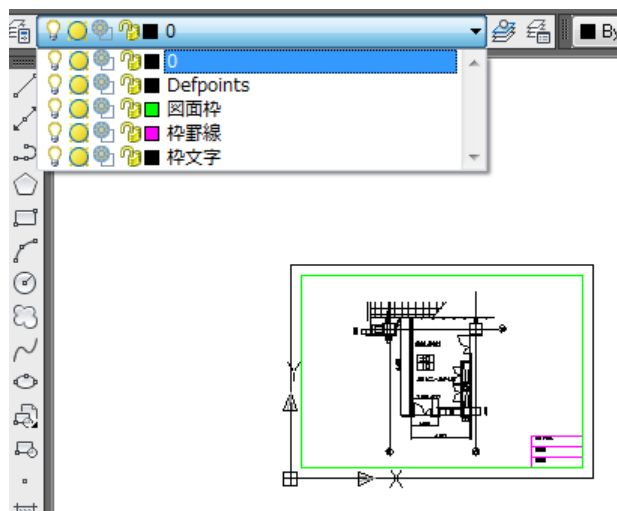
画面を全体表示させるには「表示」メニュー「ZOOM」の「図面全体」を選択するか、
コマンドラインに「Z」 Enter キー「A」 Enter キーで操作できます。



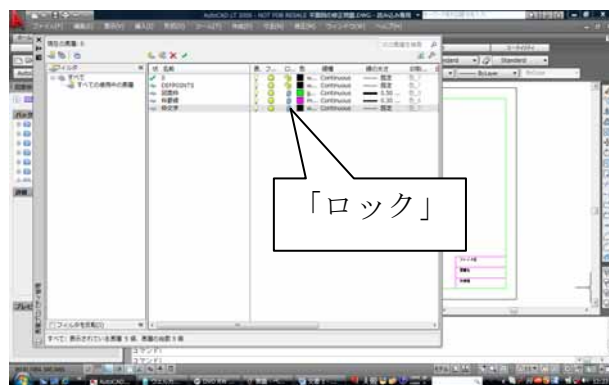
- 課題①、既存以外の画層以外に、5種類以上の画層と1線種追加する
処理方法

課題①を処理するには、

手順3、「形式」メニューの「画層管理」を開き、設定済みの画層名を確認します。

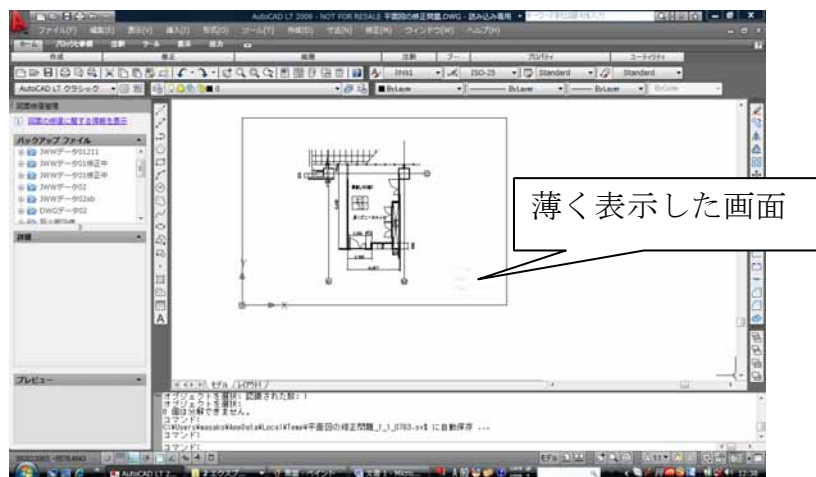


手順4、既存の画層名を「ロック」して確認します。

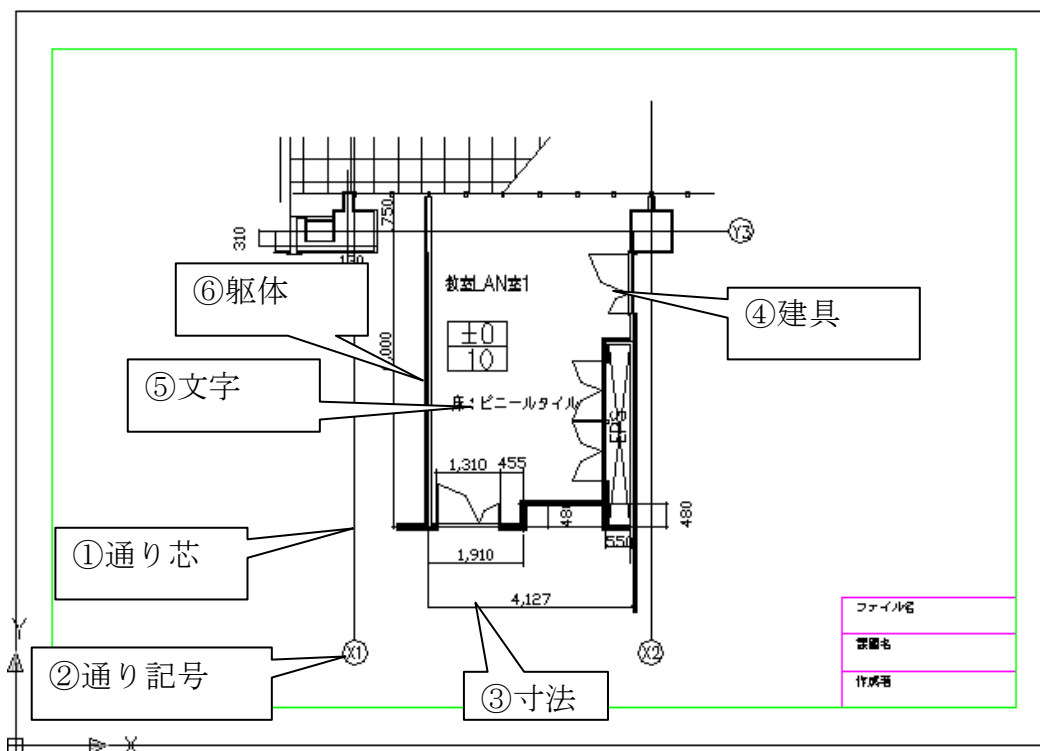


ロックした画面を解り易く表示するには、コマンドラインにシステム変数「LAYLOCKFADECTL」を入力し Enter キーを押し「50から90」に変更します。

「この練習ファイルは、読み込みデータになっていますので「修正」メニューの「分解」を押してください、ロックされた画層の表示がはっきりしません。
システム変数を入力すると、ロックされた画層が薄く表示します。



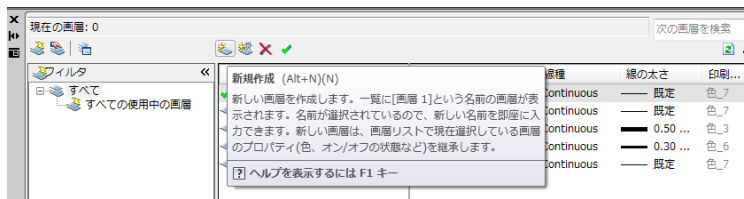
手順5、画層名を設定します。



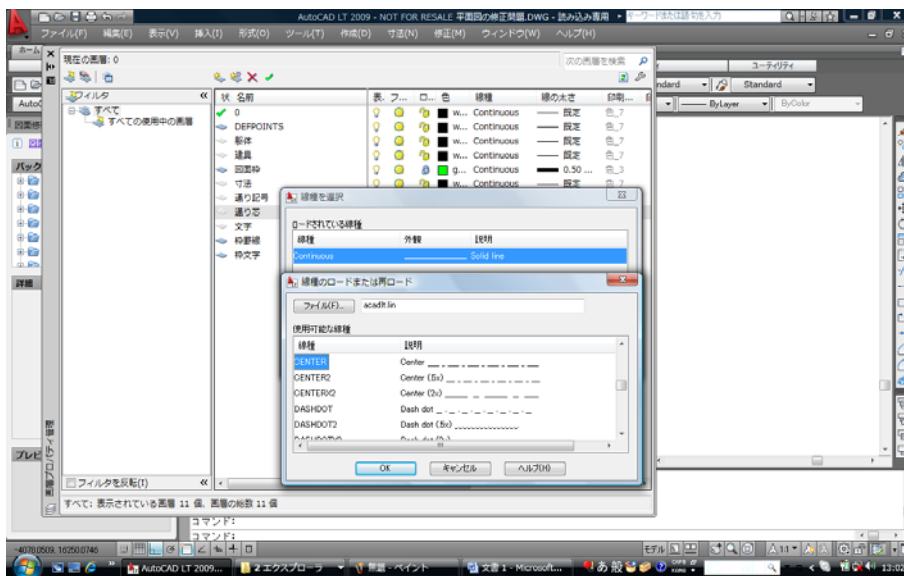
手順6、通り芯の線種を「CENTER」にします。

手順7、「形式」メニューの「画層管理」を開き、画層名と線種を新規作成します。

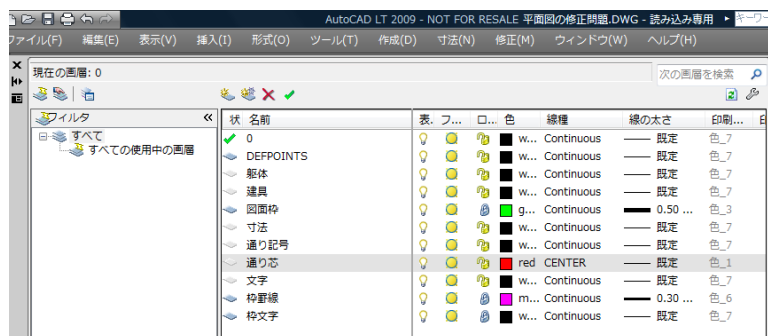
7-1 新規作成ボタンを選択します。



7-2 手順6で、決めた画層と線種を設定します。

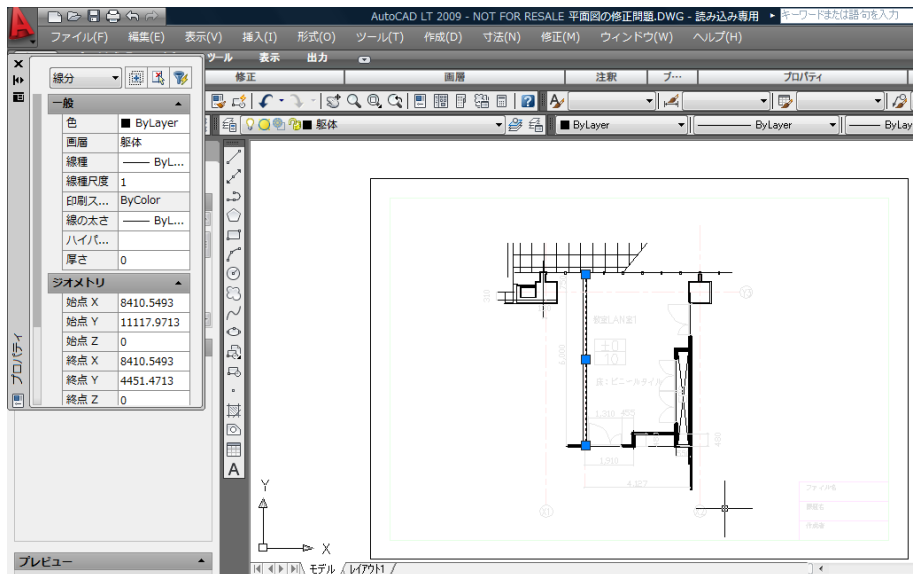


7-3 画層・線種の設定が完了しました。

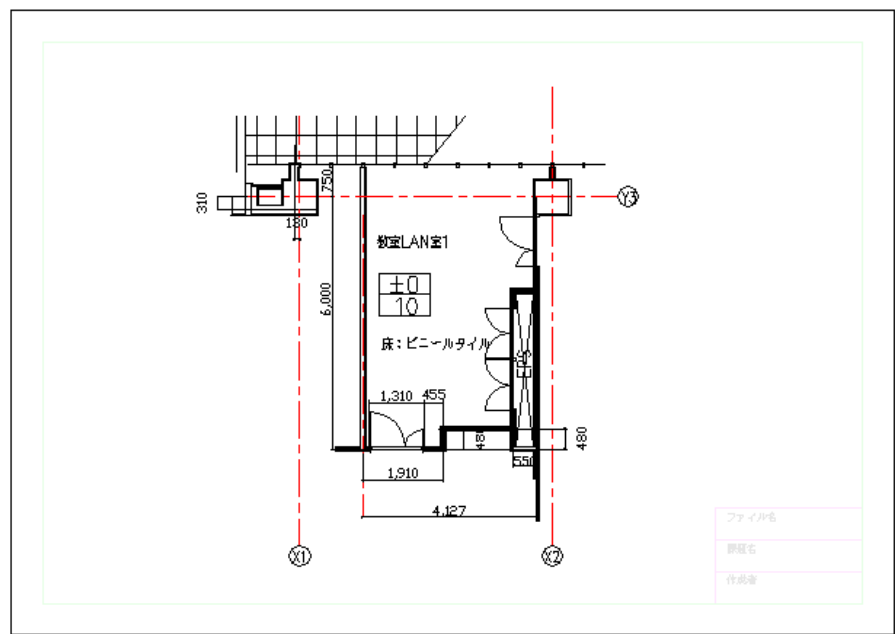


手順8、CRT 画面のデータを「修正」メニュー「修正プロパティ管理」で設定した画層に変更します。

変更後の画層名を「ロック」して編集作業の確認をします。

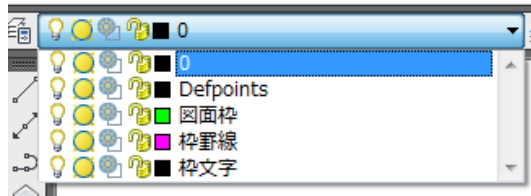


手順9、手順6で、決めた画層と線種に設定しました。



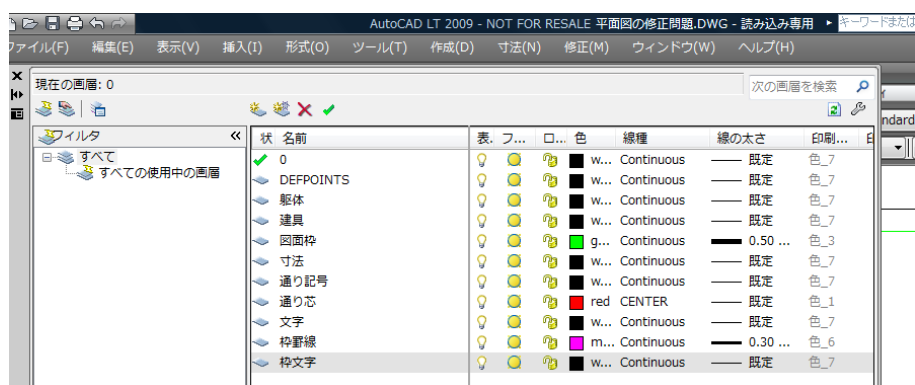
● 課題②、線の太さが「太線・中線・細線」表記ができる「色設定」にする
処理方法

手順 1、既存の画層名に設定された「色表記」を参考にします。



設定内容から、太線は緑・中線マゼンタ・白/黒で設定されています。

手順 2、新規に作成した画層と既存画層で「色設定」をします。
「形式」メニュー「画層管理」を開きます。

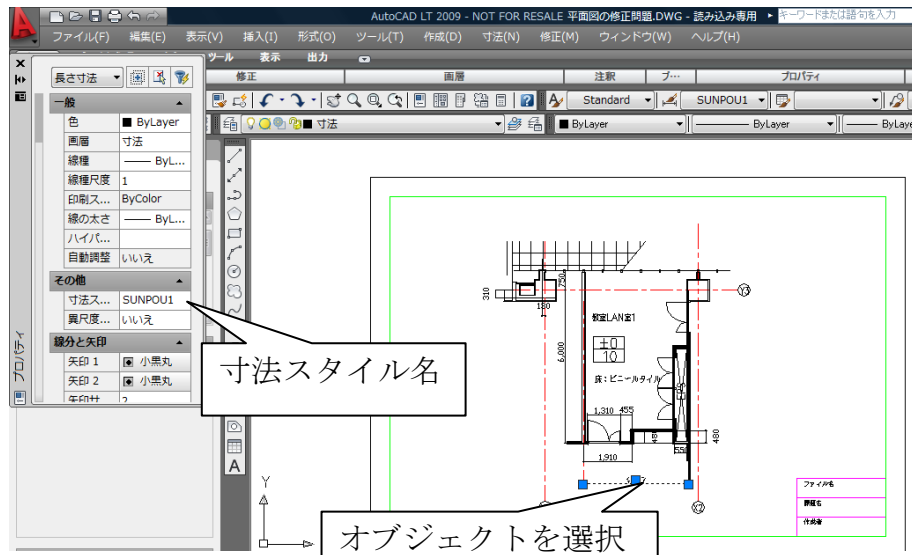


手順 3、「画層管理」設定を確認すると、躯体・建具・寸法・文字・通り記号は中線で表示
しますので「白/黒」表記で良いと考えました。

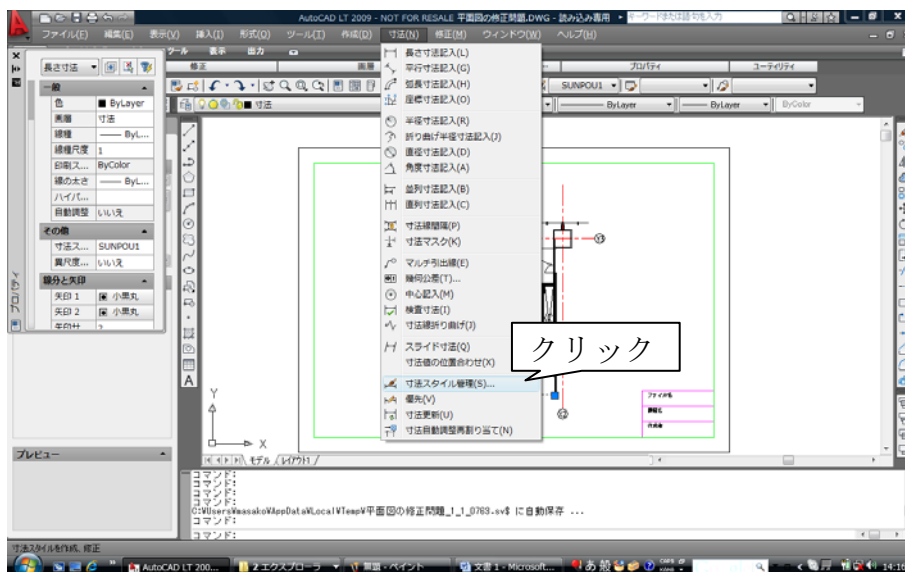
通り芯は、仮線表記で入力するので「赤色・CENTER 線」で設定
しました。

● 課題③、寸法スタイルを尺度設定に合わせて変更する処理方法

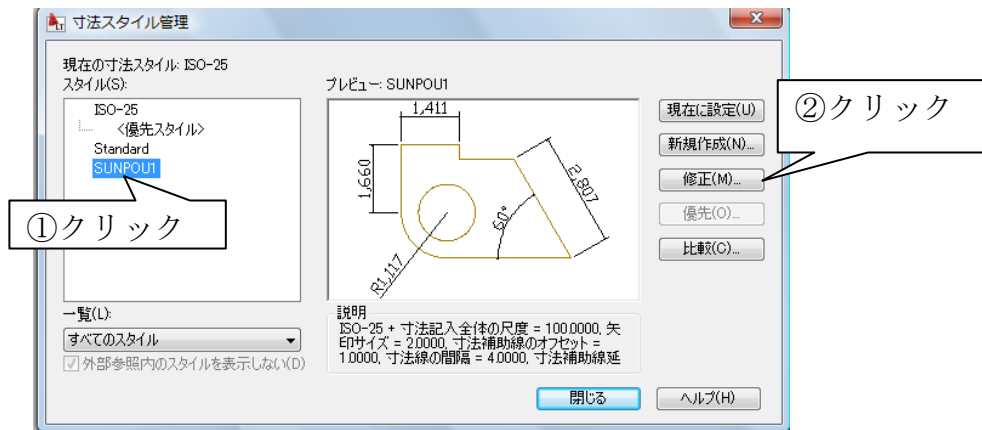
手順1、「修正」メニューの「修正オブジェクト管理」を利用して寸法オブジェクトの寸法スタイルを確認します。



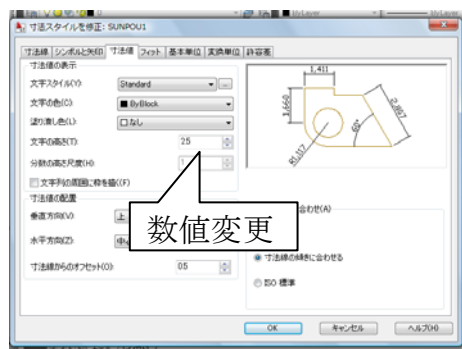
手順2、「寸法」メニューの「寸法スタイル管理」を選択します。



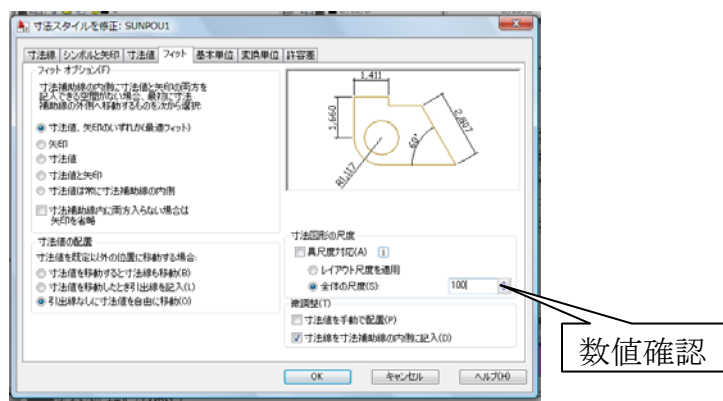
手順3、手順2で確認した「寸法スタイル名」を選択して「修正」ボタンを押します。



手順4、「寸法値」の文字の高さを設定します。

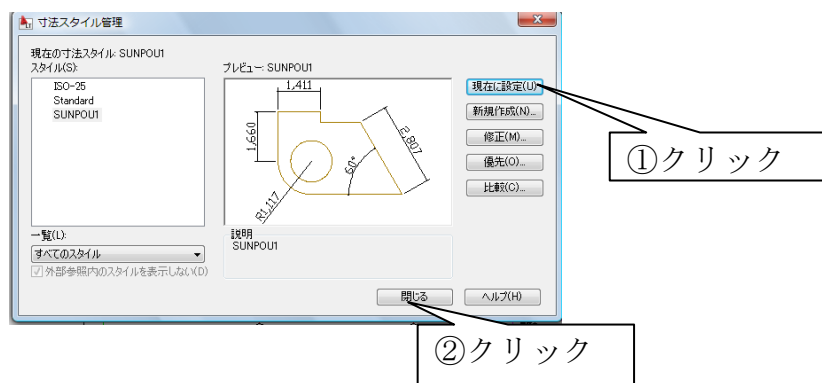


手順5、「フィット」の寸法図形尺度「全体尺度」を確認します。



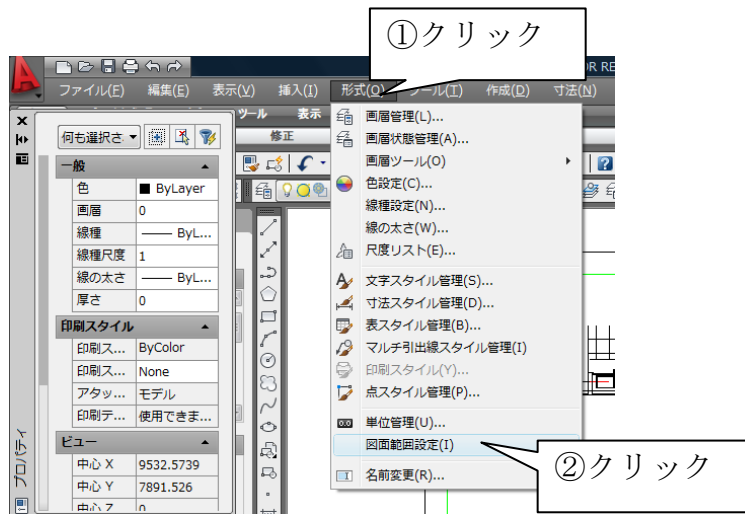
全体尺度は、「形式」メニューの「図面範囲設定」された尺度を使用します。

手順6、寸法スタイルの設定を「現在に設定」を選択後、「閉じる」ボタンを選択し作業を終了します。



● 課題④、用紙 A4 サイズ・尺度 1/50 に設定して変更する処理方法

手順 1、「形式」メニューの「図面範囲設定」を利用してファイルの設定内容を確認します。



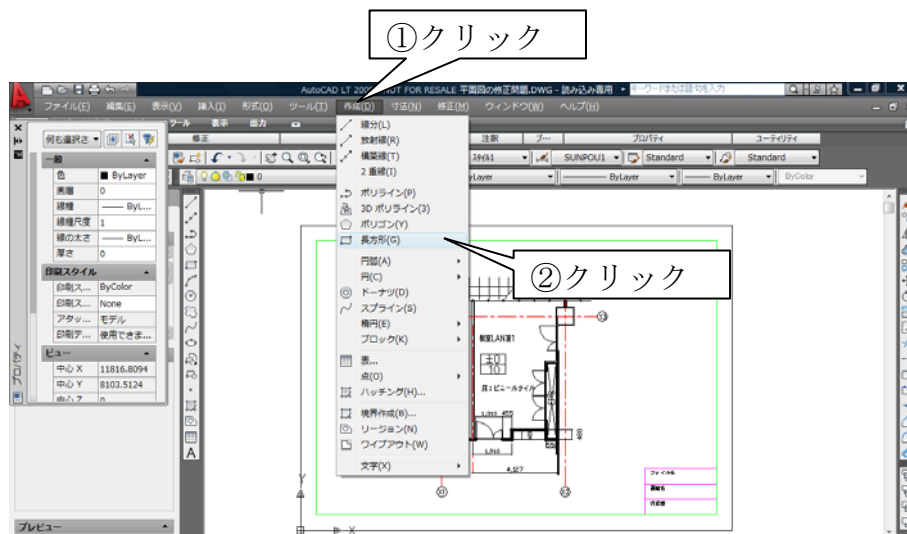
```
コマンド:
コマンド: limits
モデル空間 の図面範囲をリセット:
左下コーナーを指定 または [オン(ON)/オフ(OFF)] <0.0000,0.0000>:
右上コーナーを指定 <21000.0000,14850.0000>:
コマンド:
```

コマンドラインの数値から「用紙サイズ A3 で尺度は 1/50」に設定されています。

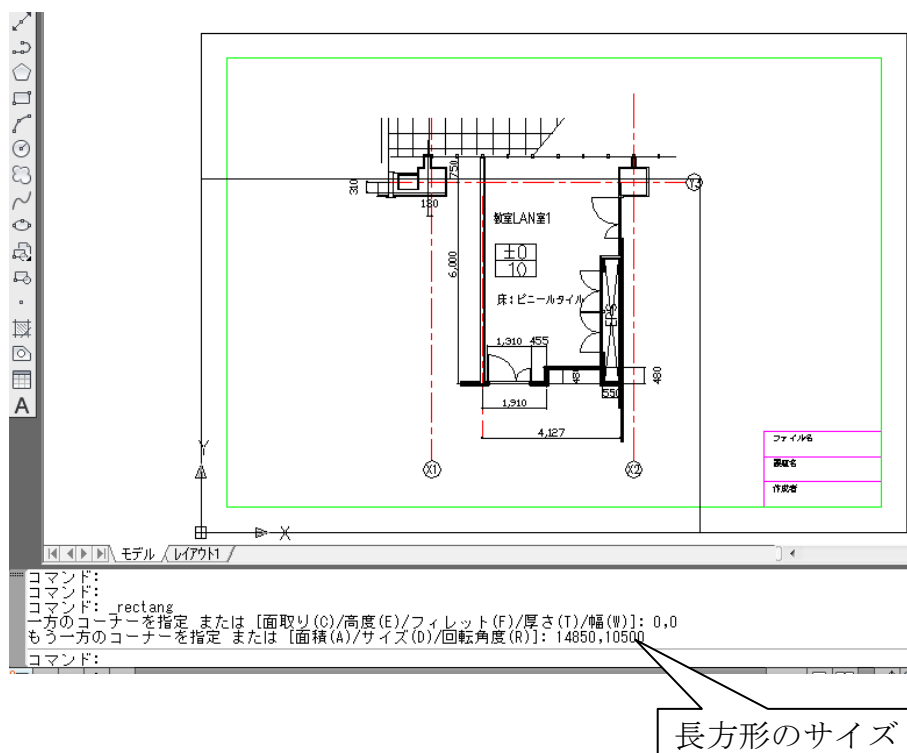
手順 2 用紙 A4 サイズ・尺度 1/50 に設定する為、再度「図面範囲設定」作業をしますが、Enter キーを押してコマンドラインに数値を入力します。

```
コマンド:
LIMITS
モデル空間 の図面範囲をリセット:
左下コーナーを指定 または [オン(ON)/オフ(OFF)] <0.0000,0.0000>:
右上コーナーを指定 <21000.0000,14850.0000>: 14850,10500
コマンド:
```

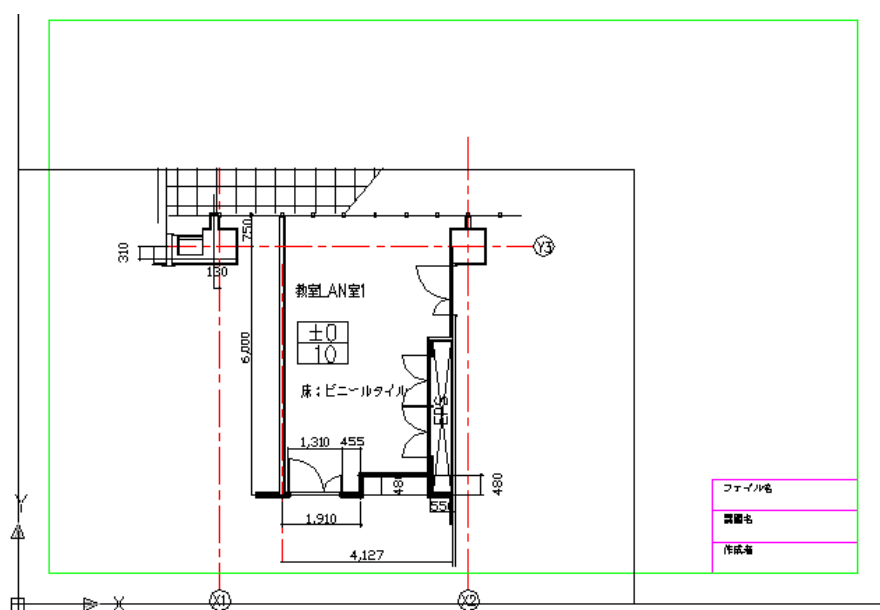
手順3、CRT画面上に、図面範囲で設定した用紙枠を「作成」メニュー「長方形」を利用して作図します。



手順4、用紙枠が表示します。



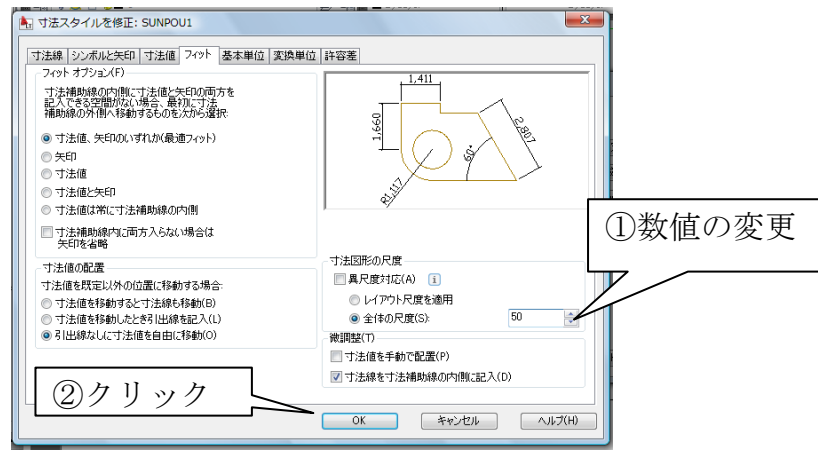
手順5、用紙枠内に図形を「修正」メニューの「移動」を利用し移動します。



● 課題⑤、図面枠は、既存の枠を尺度変更して使用する処理方法

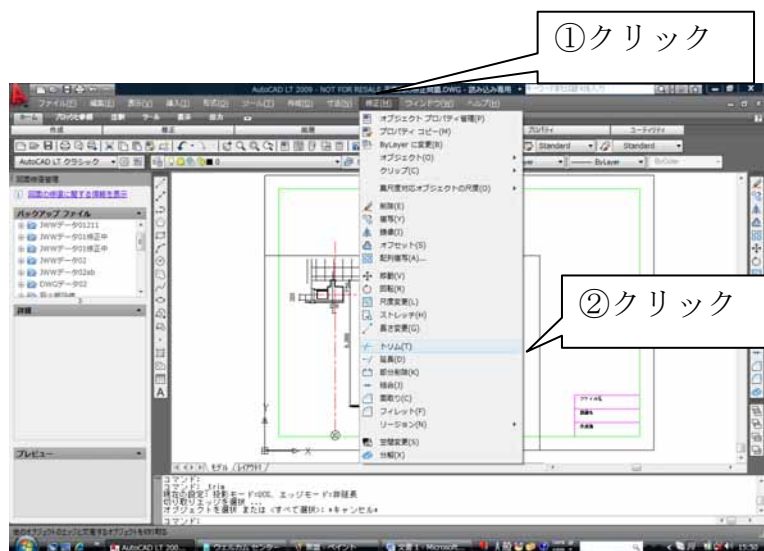
次にはみだしたオブジェクトの修正作業をします。

手順1、「寸法」メニューの「寸法管理スタイル」を開き「修正」ボタンを押し、項目「フィット」を利用して「寸法図形の尺度」の「全体尺度を（50）」に変更します。

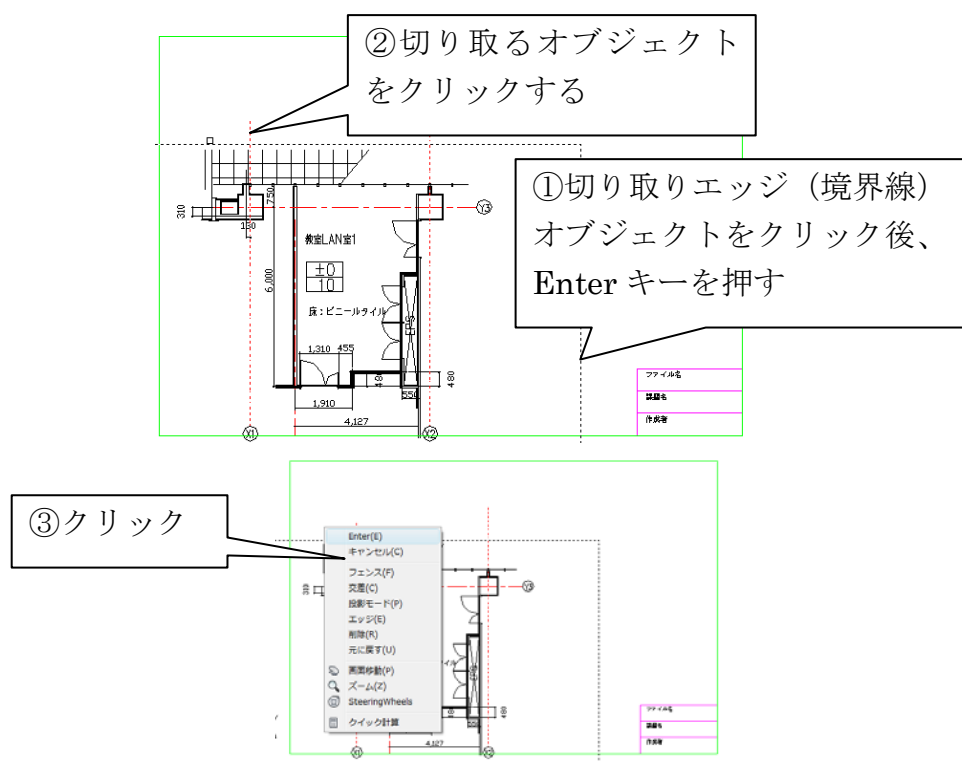


手順2、設定内容を「現在に設定」ボタンを押し「閉じる」ボタンを押します。

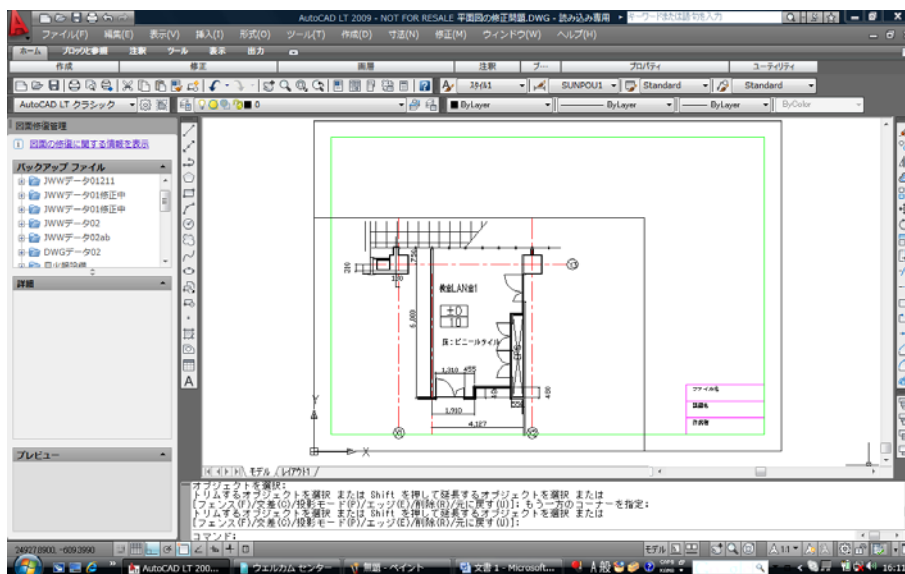
手順3、寸法の位置を移動後、通り芯の線分をトリムします。



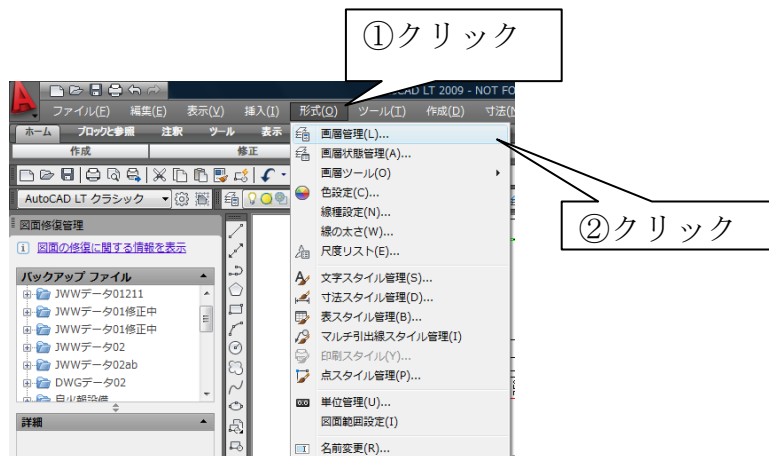
手順4、メニュー「トリム」を実行します。



手順5、「トリム」作業が終了しました。

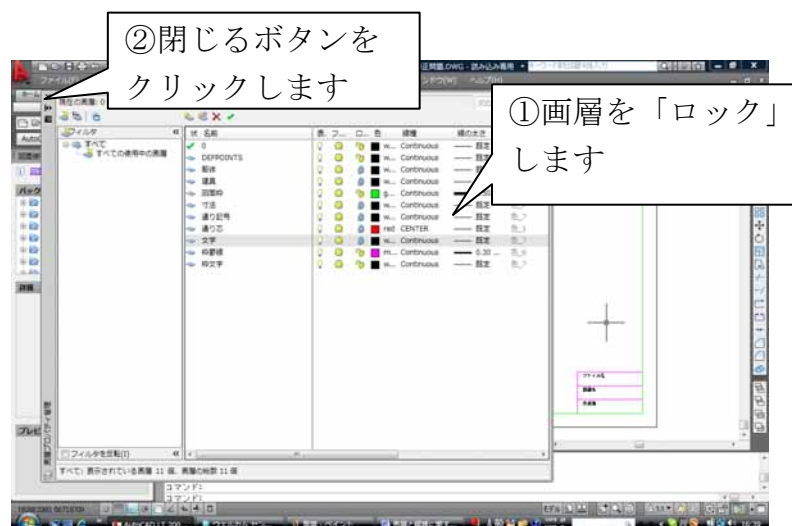


手順6、既存データで設定された画層名以外の画層を「ロック」して作業します。「形式」メニューの「画層管理」を選択します。

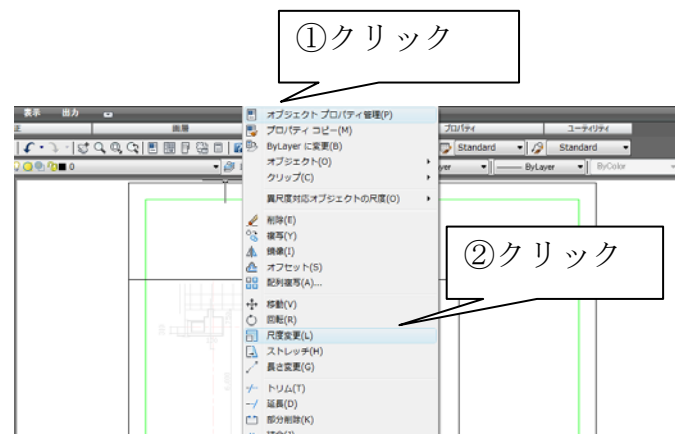


手順7、新規作成した画層名を選択して「ロック」します。

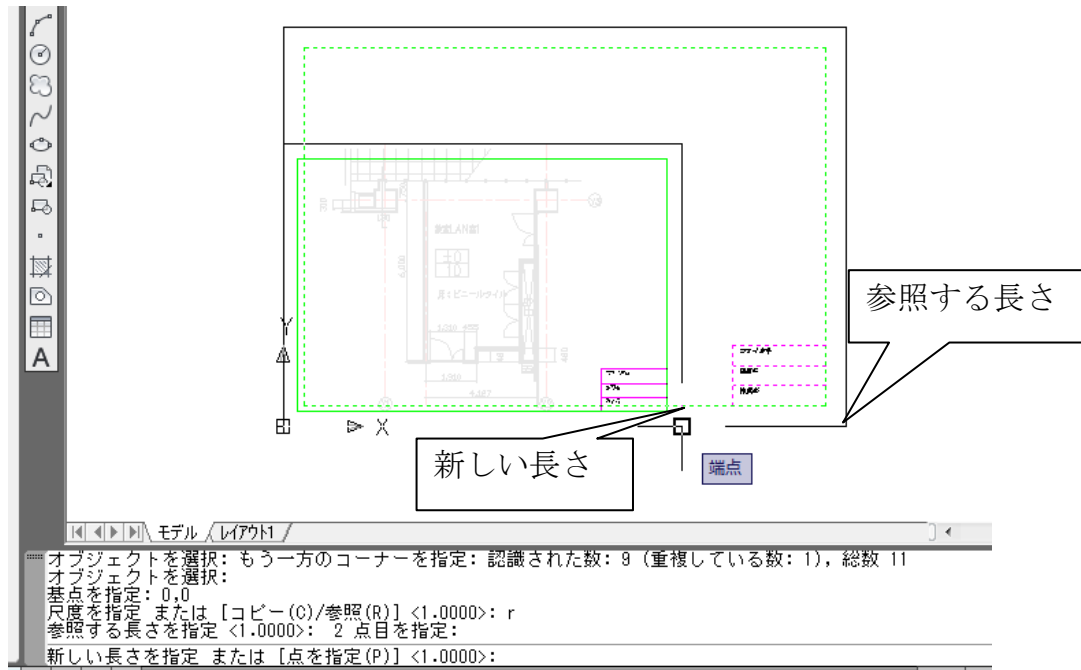
「ロック」作業すると、誤ってオブジェクトをマウスで選択する危険は起こりません。



手順8、図面枠の尺度変更をします。



8-1 オブジェクト（図面枠）を選択します。

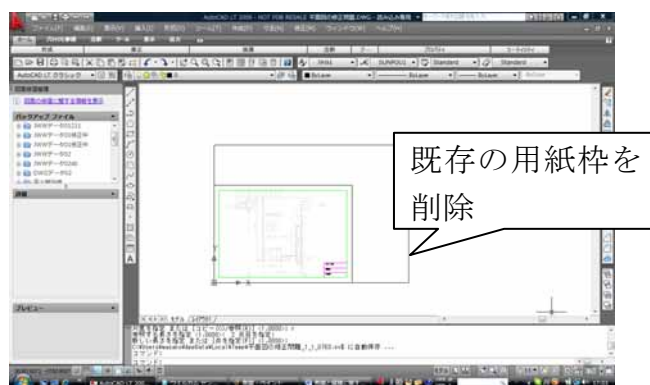


8-2 基点を指定・・・(0, 0) をコマンドラインに入力します。

8-3 尺度指定・・・(R) をコマンドラインに入力します。

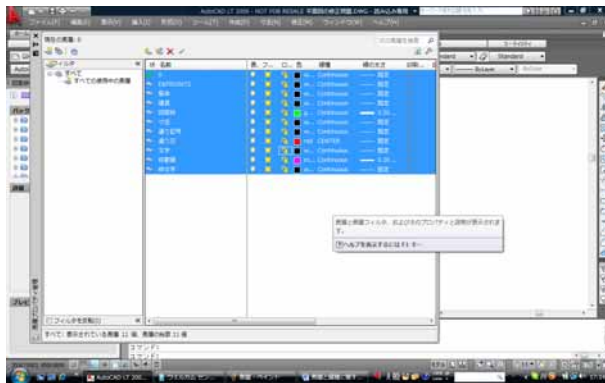
8-4 参照する長さ・・・既存の用紙枠「右下コーナー」を選択

8-5 新しい長さ・・・新規に作成した用紙枠「右下コーナー」を選択

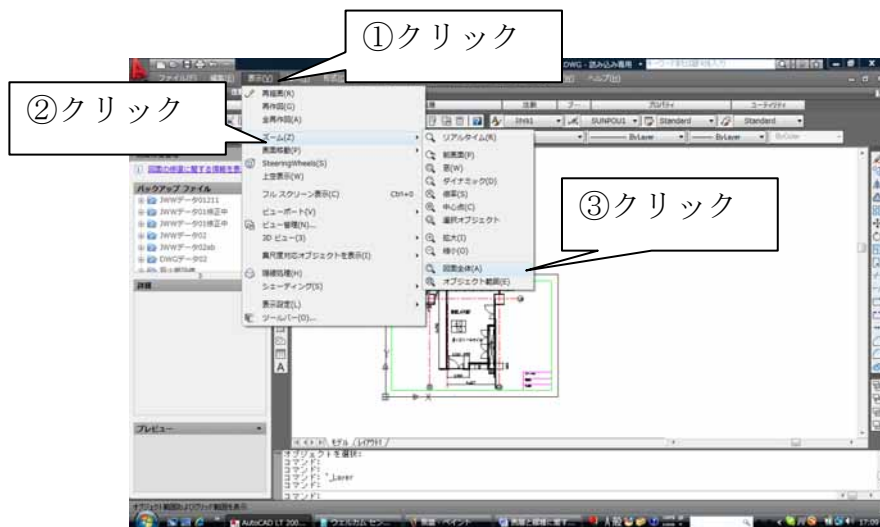


8-6 図面枠の編集が終了しました。

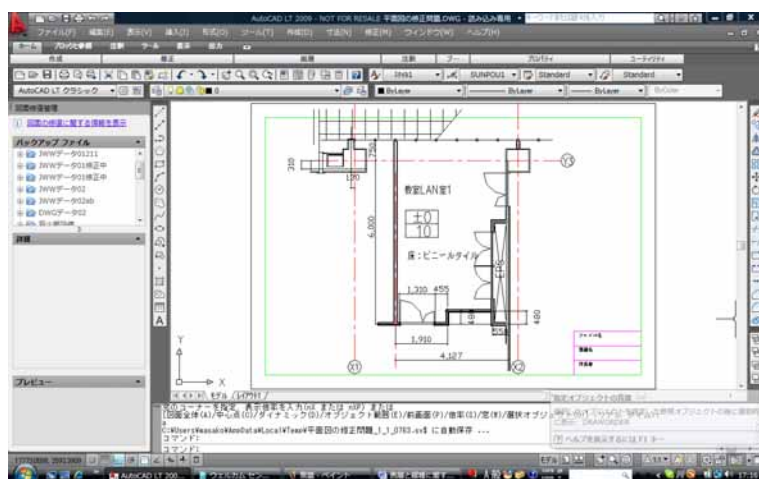
手順 9、「形式」メニューの「画層管理」を開き「ロック」を解除します。



手順 10、「表示」メニューの「ZOOM」項目「図面全体」を選択します。



手順 11、CRT 画面にデータが拡大表示します。



手順 1 2、図面枠からはみ出したオブジェクトを「修正」メニュー「トリム」で修正し「完成図面」にします。

